

# 地域の会



▲11月17日(土) 第1回公開勉強会 (柏崎市市民プラザ)



▲12月2日(日) 第2回公開勉強会・第54回定例会 (柏崎市市民プラザ)



◀12月9日(日)・10日(月)  
柏崎刈羽原子力発電所視察

## CONTENTS

**第53回定例会**  
地質調査の概要と建屋の測量について……………2

**地震関連公開勉強会**  
石橋克彦氏、溝口恵氏をそれぞれ講師に迎えて……………3

発電所を巡る主な動き  
地域の会に寄せられた声「みんなの広場」  
関係機関に提出した「意見書」……………4

### 柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会（「地域の会」）

柏崎刈羽地域では、現に存在する原子力発電所と対峙して生活せざるを得ません。それが事故無く稼動することは、個々の考え・主張の如何によらず、住民の最低かつ共通の思いです。

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

#### 地域の会 概要

- ①会員は、柏崎市、刈羽村に在住し、会が認める各種団体および地域の推薦を受けた24名の委員で構成。任期は2年。
- ②会の任務：(1)原子力発電所の運転状況及び影響等の確認・監視  
(2)事業者等への提言  
(3)会での議論、活動等の住民への情報提供  
(4)委員の研修  
(5)その他会の目的を達成するために必要と認められる事項
- ③県、市、村、国、事業者はオブザーバー、又は説明者として出席
- ④会議の種類：定例会(毎月1回)  
臨時会(必要に応じて開催)  
※会は、原則すべて公開。

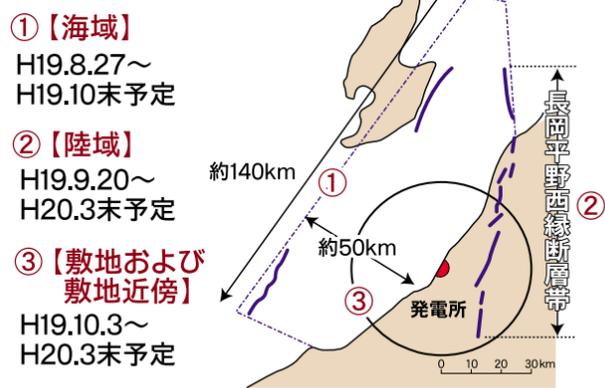
# 第53回定例会

# 地質調査の概要と建屋の測量について

## 第53回定例会の概要

開催日	平成19年11月7日(水)
場所	刈羽村ラピカ(文化ホール)
出席者	19名(欠席5名)
オブザーバー	新潟県、柏崎市、刈羽村 原子力安全・保安院 保安検査官事務所 地域担当官事務所 東京電力(株)
内容	●前回定例会以後の動き ●地質調査の概要等について ●その他

### 地質調査の全体概要



定したデータに信頼度はあるのか。  
東京電力 機器性能の向上もあり、従来よりも信頼性の高いデータが得られると考えている。

Q 東京電力の原子炉やタービン建屋が、傾いたという地盤調査の中間発表結果をどのように判断しているのか。  
保安院 建物の傾きは機器の機能に影響を与えるものではないと考えている。水準点が地震で閉鎖されたため、復旧しただい正確な標高や傾斜を求め、耐震小委員会のワーキングの中で検討を進める。

Q 地震や地盤に関する、柏崎刈羽原子力発電所設置当初の知見や調査結果を明らかにしてもらいたい。  
保安院 安全審査では、立地地点として適切か否か、現地調査で確認し、適切であったので設置を許可した。耐震小委員会では、設置許可が当時の知見で、適切なものだったのが検討事項の一つとなっている。

Q 中越沖地震の震源は海底の活断層が原因と推定されているが、今回の調査でどの程度わかったのか。また、国の調査はどの程度進んでいるのか。  
東京電力 海域や陸域での調査を早期に進め、その結果を公表しデータを提供して、地震調査研究推進本部等の公的機関による、震源断層の特定に協力していきたい。

保安院 東京電力の調査結果を耐震小委員会から判断してもらおう。調査に不足があれば、国が追加調査をして検討する。

【各委員からの意見・要望】  
●不適合事象が多数で分りにくい。各号機ごとに整理してほしい。  
●今後の耐震補強工事に関して、補強箇所や補強内容を具体的に教えてほしい。

●調査点検で不適合を発見し、対策すれば済むものでない。調査しきれない部分やゆがみ、ひずみの部分など、想定外の重大な影響を厳正に調査してもらいたい。安易に運転を再開せず、慎重に対処してほしい。

●柏崎刈羽原子力発電所の計画から建設までに、施設の位置や向きが何回も変わったのは、地盤が非常に悪かったからだと思う。34年前からの経緯や議論を遡って、その点を明らかにしてほしい。

【東海村原子力安全対策懇談会との懇談会を開催】  
東海村村長の諮問機関である同会より、会の活動の参考にしたいと依頼を受け、中越沖地震の対応について、懇談会が持たれた。  
開催日 平成19年11月14日  
場所 柏崎市市民プラザ  
参加者 地域の会運営委員6名  
東海村委員 8名

【主な質疑応答】  
Q (東海村) 住民への情報伝達が遅れたことだが、どう思うか。  
A (地域の会) 地元自治体が対応しきれない場合は、県や国が機能すべきとの意見も出ている。  
Q (東海村) ヘリコプターの騒音で防災行政放送が聞こえなかったというが。  
A (地域の会) 聞こえない地域があった。余震を恐れて戸外に居たり、また、避難所にはテレビも無く、情報入手が困難だった。  
Q (東海村) 茨城県では事業者と県で専用電話回線があるが、新潟県は。  
A (地域の会) 新潟県もあるが、東京電力の電話設備のある部屋が被害を受け、迅速な対応が出来なかった。

【意見等】  
●防災の主導権は地元自治体があったほうが良い。  
●テレビスポットで、放射能の心配はないといった情報を迅速に流せば、風評被害は軽減できたのではないか。

## トピックス

【原子力委員会―市民参加懇談会in横浜―で、新野会長が意見発表】  
原子力く知りたいたい情報は届いていまずから、新潟県中越沖地震に学ぶと題し開催。柏崎から柏崎市防災・原子力課 須田課長、柏崎観光協会 内藤会長と共に参加し、意見発表と意見交換をした。

開催日 平成19年10月29日  
場所 横浜市  
主催 原子力委員会  
参加者 117名

【新野会長の主な発表内容】  
●情報の発信は、スピードと正確性が不可欠。  
●余震を恐れ数日間、屋外で過ごさざるを得ず、的確な情報を得にくかった。発電所に近い住民には、広報車等で情報を伝え、不安を取り除く必要性があった。  
●風評被害が大きくなったことは、情報提供が適切とは言えなかったことから、人災とも考えられる。  
●マスコミは、地震災害の取材に駆り出され、原子力知識に乏しい応援部隊が報道しているように感じた。報道による影響の大きさを認識し、視聴者への信頼にたる行動を常に工夫すべき。

【東海村原子力安全対策懇談会との懇談会を開催】  
東海村村長の諮問機関である同会より、会の活動の参考にしたいと依頼を受け、中越沖地震の対応について、懇談会が持たれた。  
開催日 平成19年11月14日  
場所 柏崎市市民プラザ  
参加者 地域の会運営委員6名  
東海村委員 8名

【主な質疑応答】  
Q (東海村) 住民への情報伝達が遅れたことだが、どう思うか。  
A (地域の会) 地元自治体が対応しきれない場合は、県や国が機能すべきとの意見も出ている。  
Q (東海村) ヘリコプターの騒音で防災行政放送が聞こえなかったというが。  
A (地域の会) 聞こえない地域があった。余震を恐れて戸外に居たり、また、避難所にはテレビも無く、情報入手が困難だった。  
Q (東海村) 茨城県では事業者と県で専用電話回線があるが、新潟県は。  
A (地域の会) 新潟県もあるが、東京電力の電話設備のある部屋が被害を受け、迅速な対応が出来なかった。

【意見等】  
●防災の主導権は地元自治体があったほうが良い。  
●テレビスポットで、放射能の心配はないといった情報を迅速に流せば、風評被害は軽減できたのではないか。

Q なぜ、柏崎刈羽原子力発電所の中越沖地震の被害状況写真を公表する際、その一部が、黒く塗られたのか。  
保安院 原則公開ではあるが、テロ対策など国際的動向を踏まえて、公共安全に関する情報があるものは、黒塗りで開示した。

Q 使用済燃料プール等からの溢水の対策は。  
東京電力 溢水防止よりも、溢れた水を放射線の非管理区域に出さないことが重要。現在、対策を検討している。

Q 原子炉建屋、タービン建屋が傾いているということは、中の設備に影響を与えるのではないか。  
東京電力 原子炉建屋、タービン建屋は沈降を設計上も考慮している。建屋内の機器は分解後の組立て時に高さ調整

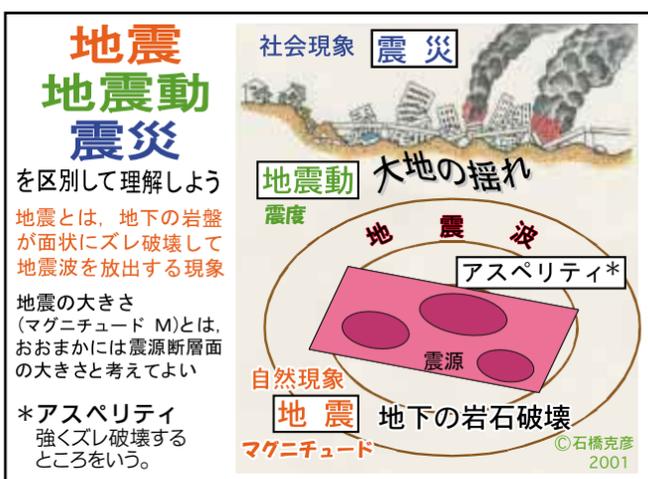
Q 地下探査や海域の音波探査で測

# 地震関連の公開勉強会を開催

二回シリーズで、地震と原子力発電所に係る考えの異なる大学教授を講師に勉強会を開催。

【第1回目】(平成19年11月17日(土))  
会場: 柏崎市市民プラザ(波のホール)  
講師: 石橋克彦氏(神戸大学教授)

「地震のしくみと中越沖地震の諸問題」と題して、活断層とは、地震はなぜ起こる、日本列島の地震情勢、中越沖地震について講演。



【主な質疑応答】  
柏崎刈羽原子力発電所は、羽越活褶曲地帯の脆弱な砂丘地帯にあるが、日本海東縁変動帯(北海道から新潟県までの日本海側にあるひずみ集中帯)と同じか。

石橋氏 日本海東縁変動帯の中にある。  
中越沖地震の震源断層面は、柏崎刈羽原子力発電所の直下まで、延びているのか。

石橋氏 際どいところだが、私たちの

今のモデルでは真下までは達していない。

新しい耐震基準の残余のリスクとは何か。新指針は万全か。

石橋氏 残余のリスクの基本的考えは、想定を超える地震動があり得る事前提として、基準地震動を十分大きく設定していることが大切である。新しい耐震設計審査指針でも、基準地震動の大きさは不十分。

安全審査は、妥当だったと思うか。

石橋氏 非常に甘い審査だったと思う。原子力発電所はリスクもあるが、それを否定することにより、他のリスクはないか。

石橋氏 地球温暖化という長期的リスクと原子力災害という短期的リスクを秤にかけると議論はある。その評価は必要だが、地震研究者の私としては、原子力発電所のリスクは非常に怖い。

【第2回目】平成19年12月2日(日)

\*第54回定例会  
会場: 柏崎市市民プラザ(風の部屋)  
講師: 溝上恵氏(東京大学名誉教授)

「地震はなぜおこるのか?(その2)」と題して、地球の内部構造、地震発生メカニズム、中越地震のメカニズムと特質、中越沖地震の観測記録等について講演。

## 【主な質疑応答】

新潟県のこの地域は、強い地震が起こる可能性が高いと、特定観測地域になっているが。

溝上氏 地震予知連絡会が、指定観測地域の枠組みを、日本列島の実態に合う形で決めたもの。

昨年の講演で、この地域では当分、大

きな地震は起こらないとの見解だったが。

溝上氏 いつ、どこで地震が起きるかは誰にも分らない。前回は、断層等が幾筋もあり、中越の地震活動の根本原因だと説明した。

昨年の講演で、原子力発電所を、戦艦「大和」に例えた意味は。

溝上氏 原子力発電所の重要な建物は、設計や耐震の基準設定が、一般の建物とは違うと言うことを、漁船と戦艦「大和」に例えた。

長岡平野西縁断層群が鳥越断層につながり、今後、大地震が連続する可能性があると言う指摘があるが。

溝上氏 中越地震について、地震研の最新観測結果が出ている。また、国土地理院も見直すとしており、それを見てからの議論。

国土地理院は、地域の構造運動を発表している。後期更新世以降の構造運動が存在しないと考えるのは、誤りと断定してよいか。

溝上氏 地理院の観測精度は高いが、地質や地震の時間と比較して、観測時間のスパンが短いため、判断しにくい。

地震災害に、都市型とローカル・地方型があると話されたが、災害規模を考えての比較なのか。

溝上氏 地震被害は、地震規模や起こる場所異なる。海溝型の巨大地震では、壊滅的被害も起こる。中規模地震でも局地的に被害がある。中越沖地震は局地的な中規模地震。

原子力発電所があるリスクと、ないリスクについて伺いたい。

溝上氏 資源には限りがあり、民族が生き延びて行くためには、技術力が必要。原子力発電所も、耐震性の問題だと思ふ。

## 中越沖地震後の発電所を視察

地震後の発電所の状況確認の為、視察を実施。

視察日 平成19年12月9日・10日

【状況確認場所】

- 7号機、4号機管理区域
- 原子炉建屋：炉内点検状況、水のしみ出し箇所、格納容器内
- タービン建屋：タービン摩耗状況
- ボーリング調査等の状況確認

## 【質疑応答】

断層活動の確認用立坑調査で、断層のずれがあった場合に、今回の地震以前のものか、後のものか分るのか。

建設当時、平らであった所が、断層に沿ってずれていないか確認できる。

柏崎市内は震度6強だったが、発電所内は、震度7位との新聞報道があったが。

震度は、地震観測小屋の地震計で得られたデータから計算したもの。

水漏れした原子炉ウエルライナーの微小の傷にも、それなりの水圧が掛かると思うが。

水圧は掛るが、水面から1m位の所である。

なぜ、低圧タービンのB・C点検部分が対象外なのか。

最初の点検では対象外だが、最終的には全部点検する。

7号機原子炉建屋3階の、壁面のひびは地震によるものか。

地震後に確認したひびだが、幅が0.3mm以下のひびは、記録管理していないため分らない。

## 【意見要望】

地震前と後の、建屋のひびの数と程度の対比は出来ないか。出来れば知りたい。

『活断層の公表関連について東京電力が説明』

海域のF・B断層については、設計許可当時の知見で、活断層ではないとしたが、断層認定の考え方を見直し、活断層の可能性があると評価した。ただし、この断層による地震動は設計用限界地震動を下回り、耐震安全上の影響はないと判断した。保安院には説明したが、今日まで公表に至らなかった。

## 【質疑応答】

柏崎刈羽原子力発電所に勤務する社員は、平成15年の国からの評価は知っていたのか。

知らなかった。本店の一部の者が対応した。発電所長も平成19年11月17日の本店での会議で知った。

平成15年の評価の指示はいつか。国への報告は、いつ、どのような形で行ったのか。

平成14年の前半頃に指示があり、平成15年6月に資料を口頭で説明した。

東電の上層部は知らなかったと言うが、誰が国へ報告したのか。

本店の土木の耐震関係担当者が報告した。

## 【意見要望】

今回の海底断層公表は、地域の会と東京電力とのコミュニケーションが取れて来た矢先の出来ごとで驚いている。東京電力では大きな問題だと捉えていないように感じる。住民との考えに大きな落差があることを、東京電力は認識を持って対応してほしい。本日、緊急運営委員会の総意で、東京電力、国、自治体等、関係機関に対し、意見書の提出を決定した。



# 発電所を巡る主な動き (10月4日～12月2日)

- 10月4日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表  
主排気ダクト(地上部・地下部)の点検結果について公表
- 4日、  
11月1日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
保安院 東京電力(株)より、新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業等の状況について、情報提供を受ける(第28報・第32報)
- 10月5日 原子炉複合建屋低電導度廃液サンプリングの水の流入について公表
- 9日 原子炉ウチライナードレン水の検知について公表  
県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく月例状況確認
- 11日 保安院 北海道電力(株) 泊発電所3号機建設現場における白煙の原因及び再発防止対策に関する報告を受ける
- 11日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表  
柏崎刈羽原子力発電所における新潟県中越沖地震に伴う「原子炉施設故障等報告」の報告について公表
- 15日 保安院 東京電力(株)より、福島第一原発1号機における、非常用ディーゼル発電機の損傷に関し、原因と対策に係る報告書の提出を受ける
- 15日 「新潟県中越沖地震対策センター」の設置と原子力発電所の防災体制の強化について公表
- 17日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表
- 18日 7号機の炉内点検状況について公表
- 21日 原子炉建屋における人が人の発生について公表  
原子炉建屋(管理区域)内における水漏れについて公表
- 23日 原子炉建屋(管理区域)内における水漏れについて(続報)公表
- 29日 保安院 総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会電力安全小委員会電力設備磁界対策ワーキンググループ(第4回)開催
- 24日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
保安院 日本原燃(株)六ヶ所再処理施設における事故を想定し、原子力総合防災訓練を実施  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表
- 25日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
保安院 総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会耐震・構造設計小委員会による、東京電力(株) 柏崎刈羽原発の現地調査を実施  
県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
平成19年度中間決算について公表
- 30日 保安院 規程の変更届出について公表  
発電所構内専用港におけるクレーン船からの油漏れについて公表
- 11月1日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表  
1号機原子炉複合建屋屋上(非管理区域)における火災の原因と対策について公表  
固体廃棄物貯蔵庫(管理区域)内におけるドラム缶を積み重ねた汚染確認について公表  
7号機原子炉ウチライの点検状況について(速報)公表
- 8日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
新潟県 原子力発電所周辺環境監視評価協議開催  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況
- 8日、  
29日 保安院 東京電力(株)より、新潟県中越沖地震後の点検・復旧状況等について、情報提供を受ける
- 9日 保安院 東京電力(株)に対し、柏崎刈羽原発の設備の健全性評価の点検・評価に関する計画について指示
- 12日 5号機の炉内点検状況について公表
- 13日 保安院 東北電力(株)より、女川原発3号機の原子炉手動停止について報告を受ける  
2号機の炉内点検において確認したシムラドサポートシリンダ外部部の線状模様について公表  
県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく月例状況確認
- 14日 保安院 総合資源エネルギー調査会原子力安全・保安部会INES評価小委員会を開催  
2号機における炉内点検(フェーズ1・2)状況について公表
- 14日 燃料集合体の燃料支持金具からの外れについて公表
- 15日 新潟県中越沖地震に伴う柏崎刈羽原子力発電所のトラブルに対する国際原子力事象評価尺度(INES)の適用について公表
- 15日 7号機の定期検査開始について公表
- 15日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表
- 16日 今冬の電力需給見通しについて公表
- 19日 2号機における炉内点検(フェーズ1・2)状況について公表
- 20日 タービン内部の点検状況について公表  
5号機の炉内点検状況について公表
- 22日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表
- 23日 6号機の炉内点検状況について公表
- 25日 6号機の炉内点検状況について公表
- 26日 構内固体廃棄物仮貯蔵庫建設現場(非管理区域)における人が人の発生について公表
- 27日 県、柏崎市、刈羽村 安全協定に基づく状況確認  
6号機の炉内点検状況について公表
- 27日 7号機に関する新潟県中越沖地震後の設備健全性に係る点検・評価計画書の提出について公表
- 28日 保安院 中国電力(株)より、島根原発1号機における燃料交換機の燃料つかみ部の変形に関する報告書の提出を受ける
- 29日 タービン内部の点検状況について公表  
炉内点検状況について公表
- 30日 新潟県中越沖地震後の点検・復旧作業の状況  
および不適合について公表  
7号機における炉内点検(フェーズ1・2)状況について公表
- 30日 保安院 中部電力(株)より、浜岡原発4号機の原子炉手動停止の原因と対策に係る報告書の提出を受ける  
保安院 関西電力(株)より、大飯原発2号機の配管肉厚管理に対する追加事項の報告を受ける

※号機のみ記載は柏崎刈羽原子力発電所分  
色は東京電力の動き 色は行政の動き

## 地域の会に寄せられた声 みんなの広場

### 安全安心は信頼関係が基礎

柏崎市 渡辺 五四六さん



活断層非公表問題で「地域の会」が、原子力安全・保安院や東京電力を始めとして、各関係機関に意見書を提出したということが報じられていました。意見書の内容を詳しくは知りませんが、各関係機関に姿勢を正すことを申し入れるのは当然のことだと思います。

なぜなら、私も「地域の会」発足から2007年4月までの4年間メンバーとして参画をしていました。「地域の会」では、原子力発電所本体の安全性は当然として、地震の影響や活断層問題などについても、数回にわたって議論されてきました。オブザーバーとして出席をされている、東京電力や保安院とも意見を交わしてきました。「地域の会」委員は、安全と安心を求めて、原子力発電所に対する賛否の立場を超えて、同じテーブルに着いているのです。地盤や断層問題が、活断層に議論されてきたにもかかわらず、その基となる情報を公開しなかった、東京電力や保安院の指導の無いことに無念を禁じえません。

「データは正しく」「情報公開は速やかに」の土台を築くために、企業や行政当局は特段の努力をして欲しいと思います。

安全、安心に結びつく信頼関係が悪化しないかと懸念をする者の一人です。

「視点」では皆様のご意見をお待ちしています。  
宛先は下欄住所まで、またメールでも受付けております。

東京電力が、柏崎刈羽原子力発電所の沖合い等の活断層の存在を2003年に確認していた事実の公表を受け、原子力委員長、原子力安全委員長、経済産業大臣、原子力安全・保安院長、資源エネルギー庁長官、東京電力社長、新潟県知事、柏崎市長、刈羽村長宛に意見書を提出

### 03年活断層評価の公表を受けての意見書

柏崎刈羽原子力発電所は、中越沖地震で大きな被害を受け、1号機から7号機まで全て運転を停止しました。現在、大小様々な被害報告は3千件余りに達します。

こうした被害を受けたことについて、建設当初から周辺の地質調査や活断層評価が適切に行われたのかという疑問の声が一部からあがっていました。

国においては中越沖地震を踏まえて、調査・対策委員会を立ち上げ審議されています。

東京電力は、12月5日、対策委員会の合同部会で、柏崎刈羽原子力発電所沖の海底活断層を03年時点で把握していた事実を公表しました。この再評価は保安院の指示に基づくもので、東京電力が報告したにもかかわらず、公表されずに来ました。

また、原子力安全委員会にも報告がなされていませんでした。

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会は、02年の東京電力不祥事後の03年に発足し、情報公開や監視を目的として活動してきました。しかし、今回の件に対し何ら責務を果せなかったことは極めて残念なことであり、地域の会の存在意義も問われる大きな問題です。

東京電力もまた、繰り返し自ら再生を誓い、情報公開に努めることを内外に明らかにしてきました。しかし、03年海底活断層再評価の対応は、02年の不祥事、06年のデータ改ざんに続くもので、情報を隠していたと言わざるを得ません。

付け加えて、国、東京電力の今回の一連の対応は、それぞれの現場で働く人々への信頼を裏切ることにならないかと考えます。

原子力安全委員会、原子力安全・保安院、東京電力は、それぞれの立場で柏崎刈羽住民、国民に対し、説明責任を果たすよう強く要望します。

新潟県、柏崎市、刈羽村には、当事者である原子力安全委員会、原子力安全・保安院、東京電力の責任と今後の根本的対策を明確にするよう強く求めることを要望します。

平成19年12月13日  
柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会

■ 今後の「地域の会」定例会の開催案内 ■

**第57回定例会**  
日時：平成20年3月5日(水)午後6:30～  
場所：新潟県柏崎刈羽原子力防災センター

**第58回定例会**  
日時：平成20年4月9日(水)午後6:30～  
場所：柏崎原子力広報センター

※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

会は公開で行われています。お気軽にお越し下さい。

地域の会ではホームページで活動の全てを公開しています。

ホームページでは活動状況をタイムリーにお知らせすると共に、会議録、会議資料の全文を公開しており、資料をダウンロードすることもできます。

また、ホームページおよび地域の会に対するご意見・お問合わせについて、ホームページ上からも受け付けています。

<http://www.tiikinokai.jp>

編集後記

中越沖地震から半年が過ぎ、少しずつではありますが生活に落ち着き、戻ってきたと感じます。街では、復興のイベントが行われ、子供達やお年寄りの笑顔を見ていると元気を出して頑張ろうという言葉が聞こえてきます。

地域の会では、地震に関連した2回の公開勉強会を開催し、難しいと思っていたテーマでしたが、丁寧な説明で分りやすい内容だったと思います。観測技術や機器の進歩と共に地震についての研究が進み、おかげで地震予知が出来るようになってきたと感じました。

地域の会が「柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保すること」を目的に活動しています。今後も原子力発電所における地震関連の情報は、安全運転に係る情報について、広報の内容や出し方を一般住民の目線に立って発信して行きたいと思っています。(運営委員 久我)